

令和7年度 ウェルカムミーティング 会議概要録

- 開催日時 令和7年11月10日(月) 9時00分～9時50分
- 開催場所 長沼町役場 町長室
- 出席者 (一社)まおいのはこ 坂本氏、佐藤氏
齋藤町長、塩浜副町長、八柳教育長、青野政策推進課長

青野政策推進課長	<p>過去にながぬま創生町民提案プロジェクトを行った団体の方たちにお声がけをさせていただき、行ってきた事業の成果や、課題感についてお話をさせていただき、また町政に対する提案などもお聞かせいただくとありがたいという思いから、ウェルカムミーティングという形で懇談会を開催いたしました。限られた時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>まおいのはこは、メインは地域おこし協力隊のサポート、それとワーケーションなど行っておりますね。ところで佐藤さんはどういったことをされていますか。</p>
佐藤氏	<p>ボードゲームを通じて町を盛り上げる活動をしているのですが、今までのボードゲームの活動実績でいくと、一番最初がながぬま温泉の2階の宴会場で、無料で会場を開いたんですが、たまたまスキー場のイベントと重なり、結構お客さんに来ていただけました。それからいろいろな場所で活動していて、小学校にお声がけいただいて、小学生と遊んだり、児童館ぼっくるでも夏休みと冬休みに子どもたちと遊ぶ活動をしていました。</p>
塩浜副町長	<p>ボードゲームというとどんなものがあるんですか。</p>
佐藤氏	<p>例えば有名なのは人生ゲーム、広く言うと、トランプや、UNOとかも、総称としてはボードゲームですね。</p>
青野政策推進課長	<p>ボードゲームをはじめとする、佐藤さんの取組などを取り込ませてもらって、地域おこし協力隊の活動やワーケーションでのアイスブレイクに非常に役立っています。では、いわゆる課題というかですね、今後の地域おこし協力隊もそうですし、少子高齢化分野の婚活イベントなどもそうだと思うんですけども、こんな課題がありますよねっていうのがあれば、せっかくの機会なのでお聞かせいただければと思います。</p>
坂本氏	<p>我々が最初にサポートし始めた代の地域おこし協力隊が、まだ卒業する年限まで来ていないんですけども、例えば知識継承であったり、人脈であったり、それらでどんどんこう積もっていくべきものだと思うんですよ。それをどういう形でうまく積み上げられるか。それを内部的な課題として考えています。</p> <p>次の課題としては、だれか起業して小さなビジネスをやろうとなったときに、スペースがあればよいなと思っています。あとは宿泊施設とかもほしいと思っています。長沼町には少ないですから。交流人口も増えると思っています。</p>

青野政策推進課長

今出たような話で言うと、住宅展示場がありますよね。そういう場所は、平日とかはあまり人が来ないのかなと。土日は人がいるけど、平日の管理を含めて貸してくれるとスペースの創出になるとか。人が来ない期間はもったいないなと感じていたもので。そんなに多くの場所あるのかって言われるというと、現状は難しいのですが。とはいえ皆さんが集いながら、少しの間、ショートステイできるような場所があるといいですね。

坂本氏

話変わるんですけど、国の職員を地域振興のために全国に派遣している制度があって、大変好評なので長沼町でも使わないかな？という話も内々から上がっていました。まあでもこれだけ地域おこし協力隊も人数いますので足りているとは思いますが、それでも。

青野政策推進課長

難しいですよ。例えば、今のこの組織の中に国の職員が入ってくると、コミュニケーションもなくて、知らない人が急に「国の者です」って言ったところで、うまく稼働するのか。そういう人って、一回長沼町に来てもらって、実際にこのホワイトベースの取組を見てもらって、地域を知ることが重要だと思います。その中でコミュニケーションが出来上がってきますし、その後で派遣してもらうか相談が良いのではないかと感じます。地域おこし協力隊も、そのような形式で採用活動しています。書類だけのジャッジではなく、必ず一回会ってからです。やっぱり僕らはチーム力というか、塊の部分を大切にするので。結果、現在の地域おこし協力隊の脱落者がいないというのは、そういうところの効果もあるのかなと実感しています。

齋藤町長

今、地域おこし協力隊の起業で一番進んでいる方というところ……

坂本氏

合同会社を設立して事業を進めている方と、販売系で個人事業主として動いている方はいらっしゃるですね。とにかく地域おこし協力隊在任中のこの期間で、いろいろと練習してもらわないと、いきなり事業というのも大変ですから。

齋藤町長

もう地域おこし協力隊の副業という形で事業をやってもらってることですね。

青野政策推進課長

以前は開業資金について3年経ってから、最大100万を補助してましたが、現在は1年経過してからの補助でも可能としています。現在、地域おこし協力隊をしながら副業という形を推奨しているので、最大100万円の補助金に関しては、任期中の活用に充てられるような仕組みも構築しました。

それと先ほど坂本さんからありました宿泊施設の話なのですが、ホワイトベースのような施設が宿泊もできると良いのかなと思ってます。長沼町の交流人口がおかげさまで200万人を超えている状況ですが、その人たちを長沼町に留めるということを頑張らなければいけない。ながぬま温泉まで来られる仕組みから、町の市街地に呼ぶという仕組みが難しいかと。やはり市街地に宿泊施設があると、いろんなイベントも打ちやすいですよ。エスコンができた影響もあって、札幌に行かなくても会えなかったような有名人が、長沼町の近くまでやってきました。すぐそこにいるのに、手が出せないというのは、非常にもどかしいので、そういう取組も何かできるんじゃないですかね。

坂本氏

そうですね。人を長沼町に留めるといふ話でいうと、地域おこし協力隊の定着率についてなんですが、私は質の高い支援による定着率向上のほうが大事だと思うんですよ。某町で地域おこし協力隊を何人も何人も増やしているのを見て、数を入れることで定着数を増やすといふのはある意味考えの一つかなとは思いますが、職員すら顔も覚えられないような人数を入れて、下手すると移住者同士だけでコミュニティを作っちゃって、もともといた街の人たちから見ると、「地域おこし協力隊とのふれあいがないね」なんて話も出かねません。

青野政策推進課長

確かにただ数を増やすといふのは、定住や定着に繋がらないかなとも思います。過去の反省もありますけれども、職員の事務補助のような形で雇用していた地域おこし協力隊ではなかなか定着しなかったもので、例えば年度で5人ずつ採用しチームを作りながら、OBの坂本さんを中心としてチームの塊を大きくしていけばいいんじゃないかなと思います。ほかの町との差別化としても、OBの方たちの組織が一般社団法人を作るといふことで、そのスタッフに地域おこし協力隊が入ってくるというスキームは、優良事例として取り上げられてもいいんじゃないのかなと思ってます。

それでは所定の時間となりました。あっという間に時間が過ぎてしまいました。このような機会を創出して、お話を定期的にいただくことは大切だと思います。佐藤さんも楽しい取組といふか、町民提案でのにぎわい創出の部分があるかと思っておりますので、個人的に期待しております。限られた時間でしたが、以上で、ウェルカムミーティングありがとうございました。